FUND
REPORT

生成AIの進化による投資環境の変化

- グローバルA Iファンド
- グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）
- グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）
- グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）

平素より「グローバルA Iファンドシリーズ*」（以下、当シリーズ）をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。
本資料では当シリーズの実質的な運用を担当するヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー（以下、ヴォヤIM）からの情報を基に、足元の市場環境や今後の運用方針等についてご紹介いたします。

*「グローバルA Iファンドシリーズ」とは、同じマザーファンドに投資を行う「グローバルA Iファンド」、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」、「グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）」、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）」の4ファンドの総称です。
※ 以下、「グローバルA Iファンド」を（為替ヘッジなし）、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり）」を（為替ヘッジあり）、「グローバルA Iファンド（予想分配金提示型）」を（為替ヘッジなし予想分配金提示型）、「グローバルA Iファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）」を（為替ヘッジあり予想分配金提示型）とすることがあります。

本資料の内容

1. 足元のパフォーマンスの振り返り

- 2023年は生成AIの関心の高まりなどからテクノロジー関連銘柄が上昇
→足元では米国の金利が大きく上昇したことなどから、テクノロジー関連銘柄は軟調に推移するも、当シリーズの基準価額は設定来では良好なパフォーマンス

2. 生成AIの需要拡大期待

- 生成AIの台頭は「AIの転換期」
→新たなAI革命の始まりになると期待される
- 生成AI関連銘柄は今後中長期的に高い成長が期待される
→今後、多くの分野での活用が期待される
- 当シリーズに生成AI関連銘柄を組入れ
→生成AIの成長拡大に伴う恩恵の享受が期待される

3. 今後の見通し、運用方針

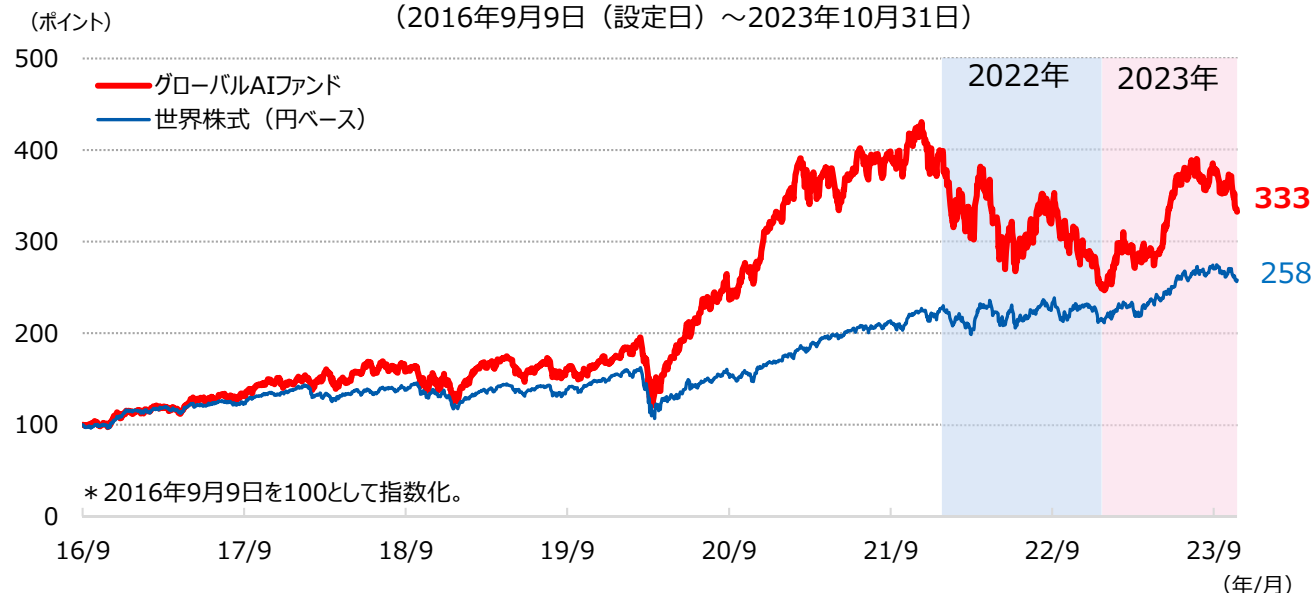
- メガキャップ銘柄と中小型銘柄を両輪として捉え、生成AIの成長を取り込める運用を目指す

※上記は過去の実績、当資料作成時点の見通しおよび運用方針であり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

1. 足元のパフォーマンスの振り返り①

- 2022年のグローバルAIファンドのパフォーマンスは大きく下落しましたが、2023年は堅調に推移し、設定来では良好なパフォーマンスとなっています。

＜グローバルAIファンドの設定来のパフォーマンス＞
(2016年9月9日(設定日)～2023年10月31日)



- 2022年 **世界的なインフレ高進により世界株式は軟調となり、当シリーズの基準価額は下落**
世界的なインフレ高進や、米政策金利引上げなどを受けて世界株式は軟調となったほか、FRB（米連邦準備制度理事会）高官によるタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な発言が続いたことが、テクノロジー関連銘柄の株価の重石になる場面も。
- 2023年
1～7月 **生成AIへの関心の高まりからテクノロジー関連銘柄が反発し、当シリーズの基準価額も上昇**
世界的な物価上昇率の落ち着きと米国経済の軟着陸期待、米国企業の堅調な企業決算などから、世界経済が想定以上に底堅く推移するとの見通しにより投資家心理が改善。
- 2023年
8月～10月 **金利の大幅上昇などからテクノロジー関連銘柄が下落し、当シリーズの基準価額も軟調な動きに**
主要中央銀行が当面、政策金利を高水準で維持するとの見方が強まったことや、米国の財政悪化懸念などから、米国の金利が大きく上昇しグロース（成長）銘柄には逆風になったことなどが要因。

(注1) グローバルAIファンドは税引前分配金再投資基準価額（信託報酬控除後）。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

(注2) 世界株式（円ベース）はMSCI ACワールドインデックス（配当込み）。当シリーズのベンチマークではありません。

(注3) 基準価額算出時の外貨建て資産の円換算には、基準価額算出日前日（休日の場合はその直近の最終取引日）の株価と、基準価額算出日の為替レートを使用しています。そのため、上記グラフの世界株式（円ベース）についてはこの計算方法に沿って、基準価額算出日前日の指数値と、基準価額算出日の為替レートから円換算値を算出しています。

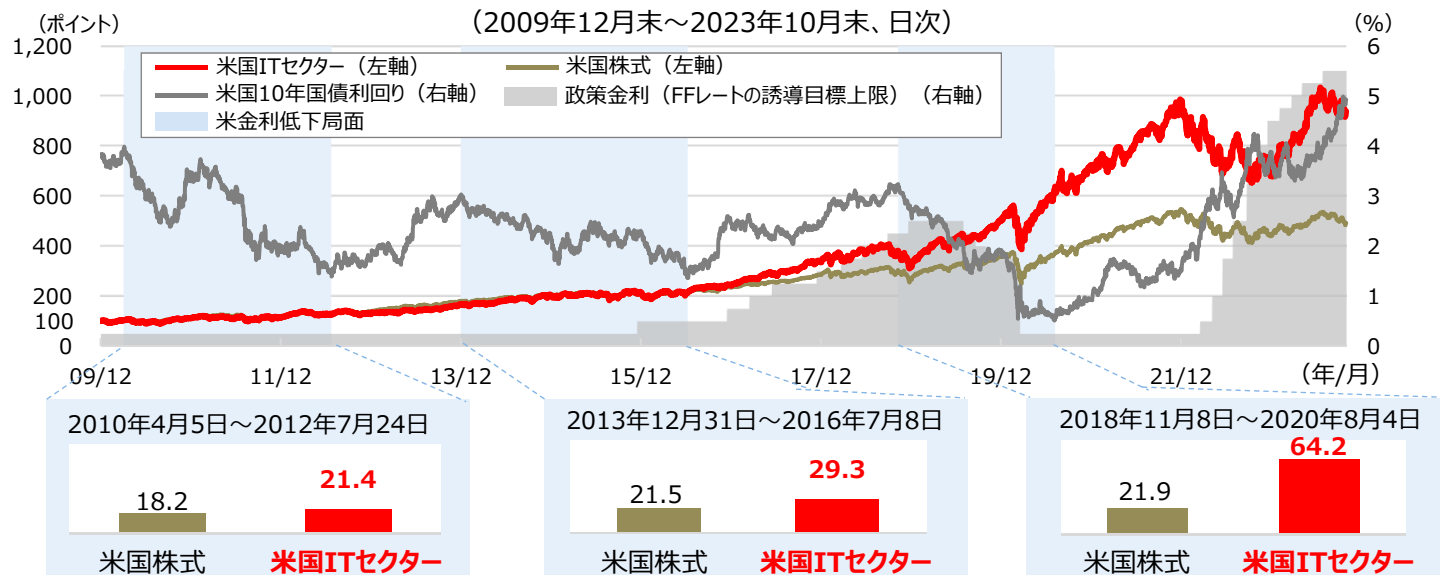
(出所) Bloombergのデータ、ヴォヤIMのコメントを基に委託会社作成

※上記は過去の実績であり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

1. 足元のパフォーマンスの振り返り②

- 2022年の米国株式市場においては長期金利が上昇するなか、高PER（株価収益率）となっていたグロース（成長）株を中心とした米テクノロジー関連銘柄が相対的に大きく下落しました。
- 一方、過去の金利低下局面においては、米テクノロジー関連銘柄は相対的に高いパフォーマンスを示す傾向にあったことから、今後金利が低下した場合には米国株式全体を上回るパフォーマンスが期待されます。

<米金利と米国株式等の推移と米金利低下局面における騰落率>



(注1) 米国株式はS&P500種指数、米国ITセクターはS&P500種指数ITセクター（いずれも配当込み、米ドルベース）を使用。いずれも当シリーズのベンチマークではありません。

(注2) 米国株式と米国ITセクターは2009年12月末を100として指数化。

(注3) 米金利低下局面は米国10年国債利回りの低下局面。

(出所) Bloombergのデータを基に委託会社作成

- 2023年10月末現在の組入上位10銘柄のうち、8社が市場予想を上回る四半期売上高となっており、10社とも株価は年初来でプラスとなっています。

<組入上位10銘柄の売上高等>

銘柄	組入比率 (%)	直近四半期売上高 (前年同期比)	市場予想比	2023年年初来株価上昇率
エヌビディア	5.4	+102%	大幅上振れ	+179.0%
メタ・プラットフォームズ	4.6	+23%	上振れ	+150.3%
アマゾン・ドット・コム	4.6	+13%	上振れ	+58.4%
テスラ	4.5	+9%	下振れ	+63.0%
マイクロソフト	4.0	+13%	上振れ	+41.0%
アドビ	3.3	+10%	一致	+58.1%
トワイリオ	3.1	+10%	上振れ	+4.7%
アルファベット クラスA	3.0	+12%	上振れ	+40.6%
ショッピファイ	2.9	+25%	上振れ	+36.0%
オン・セミコンダクター	2.8	-1%	上振れ	+0.4%

(注1) 組入比率はグローバルA I エクイティ・マザーファンドの純資産総額を100%として計算（2023年10月末現在）。

(注2) 市場予想比はブルームバーグのコンセンサス予想との比較。コンセンサス予想と±20%以上の乖離があった場合に大幅上振れ/大幅下振れ、コンセンサス予想と±1%～20%の乖離があった場合に上振れ/下振れ、コンセンサス予想と±1%以内の場合は一致と判断。エヌビディアは5-7月期、アドビは6-8月期、トワイリオは4-6月期、それ以外は7-9月期決算。

(注3) 2023年年初来株価上昇率は2023年10月末現在の株価を基に算出（2022年12月末対比）。

(出所) アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン（以下、アリアンツGI*）、ヴォヤIM、Bloombergのデータを基に委託会社作成

*アリアンツGIはヴォヤ・インベストメント・マネジメントと戦略的パートナーシップを締結し、日本におけるマーケティングを担当しています。

※上記は過去の実績および当資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。見通しは今後、予告なく変更する場合があります。

※上記は組入銘柄の例であり、当シリーズにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

2.生成AIの需要拡大期待①

- 生成AIの台頭は「AIの転換期」。

“The iPhone moment of AI has started.

—— iPhoneが登場したときのような革命がAIで始まった。

Accelerated computing and AI have arrived.”

アクセラレーテッド コンピューティングとAIの到来です。——

(専用ハードウェアを使用して作業を大幅に高速化するもの)



エヌビディアCEO
ジェンスン・ファン氏

AIの進化が新たな段階へ

- 今までにない生成AIの特徴

- ✓ ITやプログラミングなどに知識がなくても「誰でも使える」
- ✓ 身近な領域にも活用可能であるため、AIが日々の生活へ一段と浸透
- ✓ クリエイティブな分野でもAIが活用できる

生成AIの利用例



【議事録作成】

文字起こしのできる生成AIは、音声の内容をテキスト化することができるため、例えば会議の録音データをテキスト化して議事録として保存することなどが可能に。



【作品のアイデア】

小説家が頭の中で考えているいくつかの情報をテキスト生成系AIに与えることで、小説を執筆する上でのクリエイティブなアイデアをもらうことが可能に。



【動画コンテンツの作成】

音楽生成系AIで作成したBGMを使用し、画像生成系AIで作成したイラストを用いて動画を作成できるようになることから、コンテンツ作成の大部分をAIが作成する可能性も。

※画像はイメージです。

生成AIは長期で幅広い分野での活用が期待される

(出所) エヌビディアGPUテクノロジーカンファレンス(2023年3月)、各種資料を基に委託会社作成

※上記は過去の実績であり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

2.生成AIの需要拡大期待②

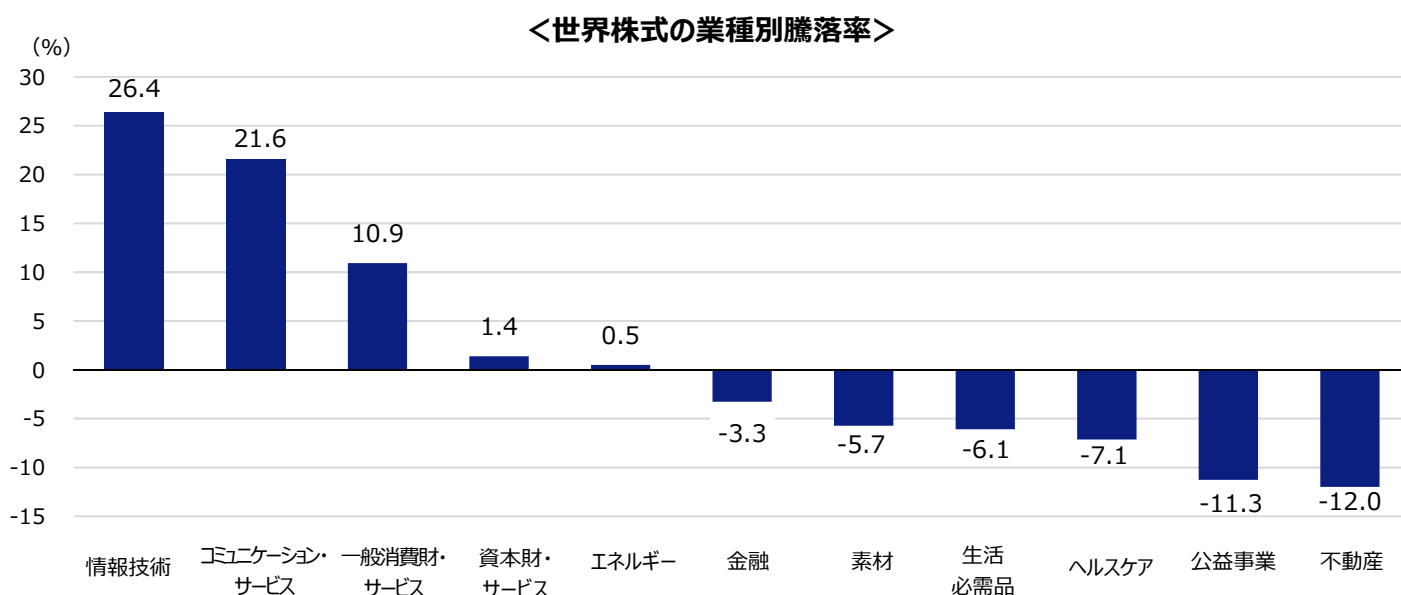
- 生成AIの市場規模は、中長期的に高い成長が期待されており、2022年の400億米ドルから2032年には1.3兆米ドル（約198兆円）に拡大すると期待されています。



(注) 円ベースは1米ドル=151.51円（2023年10月末）で換算。

(出所) アリアンツGIから提供を受けたBloomberg Intelligenceの予想値を基に委託会社作成

- 2023年以降、世界株式市場ではAIに関連する情報技術やコミュニケーション・サービスなどのハイテク銘柄が選好されています。



(注) データは2023年10月末現在の年初来騰落率。MSCI AC World インデックス（米ドルベース、プライスリターン）の業種別インデックスを使用。いずれも当シリーズのベンチマークおよび参考指数ではありません。

(出所) Bloombergのデータを基に委託会社作成

※ 上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。また、当シリーズの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

2.生成AIの需要拡大期待③

生成AIの恩恵が期待される、もしくはユニークな生成AIツールを開発する中小型の高成長銘柄

生成AIのポジティブ・インパクトを早い段階から享受できる大型銘柄

当シリーズでは、大型銘柄と中小型銘柄を両輪として捉え、生成AIの成長の享受を目指す

- 当シリーズでは、生成AIからの大きな恩恵が期待されるメガキャップ銘柄などを機動的に売買しています。

<2023年の組入上位10銘柄の推移>

2023年1月末	2023年2月末	2023年3月末	2023年4月末	2023年5月末	2023年6月末	2023年7月末	2023年8月末	2023年9月末	2023年10月末
テスラ	テスラ	エヌビディア	マイクロソフト	テスラ	テスラ	アマゾン・ドット・コム	エヌビディア	エヌビディア	エヌビディア
オン・セミコンダクター	エヌビディア	マイクロソフト	アマゾン・ドット・コム	アマゾン・ドット・コム	アマゾン・ドット・コム	オン・セミコンダクター	テスラ	テスラ	メタ・プラットフォームズ
メタ・プラットフォームズ	メタ・プラットフォームズ	テスラ	メタ・プラットフォームズ	メタ・プラットフォームズ	オン・セミコンダクター	アドビ	アドビ	メタ・プラットフォームズ	アマゾン・ドット・コム
アリババ・グループ・ホールディング	オン・セミコンダクター	メタ・プラットフォームズ	テスラ	オン・セミコンダクター	メタ・プラットフォームズ	エレバンスヘルス	アマゾン・ドット・コム	オン・セミコンダクター	テスラ
ブロードコム	マイクロソフト	オン・セミコンダクター	オン・セミコンダクター	マーベル・テクノロジー	アドビシステムズ	ディア	オン・セミコンダクター	アドビ	マイクロソフト
エレバンスヘルス	マーベル・テクノロジー	アマゾン・ドット・コム	マーベル・テクノロジー	アルファベット クラスA	ディア	テスラ	ショッピファイ	マイクロソフト	アドビ
シュルンベルジェ	アマゾン・ドット・コム	マーベル・テクノロジー	エレバンスヘルス	マイクロソフト	ツイリオ	ツイリオ	ディア	アマゾン・ドット・コム	ツイリオ
マーベル・テクノロジー	エレバンスヘルス	アリババ・グループ・ホールディング	エヌビディア	エンフェーズ・エナジー	ネットフリックス	ショッピファイ	マイクロソフト	ツイリオ	アルファベット クラスA
ズームインフォ・テクノロジーズ	アリババ・グループ・ホールディング	エンフェーズ・エナジー	エンフェーズ・エナジー	ツイリオ	ショッピファイ	エンフェーズ・エナジー	ツイリオ	ショッピファイ	ショッピファイ
アルベマール	ズームインフォ・テクノロジーズ	ズームインフォ・テクノロジーズ	モンゴDB	クラウドストライク・ホールディングス	エレバンスヘルス	ユナイテッドヘルス・グループ	エレバンスヘルス	エレバンスヘルス	オン・セミコンダクター

(注1) 組入上位10銘柄はグローバル A I エクイティ・マザーファンドの組入上位10銘柄。

(注2) メガキャップ銘柄は時価総額2,000億米ドル以上の企業。ハイライトは主なメガキャップ銘柄（アルファベット クラスA、アマゾン・ドット・コム、メタ・プラットフォームズ、マイクロソフト、エヌビディア）。

(出所) アリオンツGI、ヴォヤIMのデータを基に委託会社作成

※ 上記は当シリーズが投資するマザーファンドの各月末時点における保有銘柄であり、当該銘柄を今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

※ 上記は過去の実績であり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

2.生成AIの需要拡大期待④

- 当ファンドは将来的に大きな成長が見込める下記のような中小型株へタイミングを見て投資しています。

＜生成AIを活用する主な中小型銘柄例＞

銘柄名	組入比率 (%)	銘柄概要	生成AIの活用事例	時価総額
トウイリオ	3.1	クラウドベースのコミュニケーションツールを提供	生成AI機能を同社のプラットフォームに追加。 → コンタクトセンター（メールやチャット、SNSなどで顧客対応を行う窓口）における自然な言語でのやり取り、マーケティング自動化支援 などを提供。	約1兆4,066億円 (約93億米ドル)
マンデードットコム	2.1	プロジェクト管理、業務管理ツールを提供	同社ツールに生成AI機能を追加。 → 必要なタスクの自動生成、Eメールの自動生成、様々な要約、タスクや目的達成のための効率的な解決策 などを提供。	約9,402億円 (約62億米ドル)
ゼットスケラー	2.0	クラウドベースのサイバーセキュリティツールを提供	生成AIを用いた高度なセキュリティソリューションを導入。 → 侵害を事前に予測し、対応策の推奨や影響分析 を提供。	約3兆5,384億円 (約234億米ドル)
ズームインフォ・テクノロジーズ	1.6	マーケティング支援、自動化ツールを提供	多くの生成AI機能を発表。 → 顧客とのミーティングの要約、必要なアクションなどを自動生成、様々なマーケティングの自動化支援 などを提供。	約7,654億円 (約51億米ドル)
エラスティック	1.5	検索やデータ分析、可視化を可能とするツールを提供	機械学習を活用した「ベクトル検索」の開発を進行。 → 大規模言語モデルを組み合わせることで、自然な言語表現で検索が可能なツールを開発 。	約1兆1,215億円 (約74億米ドル)

(注1) 銘柄概要、生成AIの活用事例および時価総額は2023年10月末現在。時価総額（円ベース）は1米ドル＝151.51円（2023年10月末）で換算。

(注2) 組入比率はグローバルAIエクイティ・マザーファンドの純資産総額を100%として計算（2023年10月末現在）。

(注3) 中小型銘柄は時価総額380億米ドル以下（MSCI World Mid Cap Indexの時価総額最大企業が約380億米ドル（2023年10月末現在）であることに基づく。）

(出所) アリantzGI、ヴォヤIM、Bloombergのデータを基に委託会社作成

※ 上記は組入銘柄の例であり、当ファンドにおいて今後も当該銘柄の保有を継続するとは限りません。また当該銘柄を推奨するものではありません。

※ 上記は過去の実績であり、当シリーズの将来の運用成果や今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

3. 今後の見通し、運用方針

- 1 インフレの低下基調とFRBによる金融引締め懸念が後退した場合は、米株式市場は個別企業のファンダメンタルズに沿った展開が想定される。
- 2 チャットGPTに代表される生成AIの台頭は、AIの進化と可能性を示しており、多くのポジティブな影響を及ぼすと想定される。
- 3 生成AIの活用などにより業績拡大が予想されるメガキャップ銘柄だけでなく、高い成長が期待される中小型銘柄にも選別して投資。

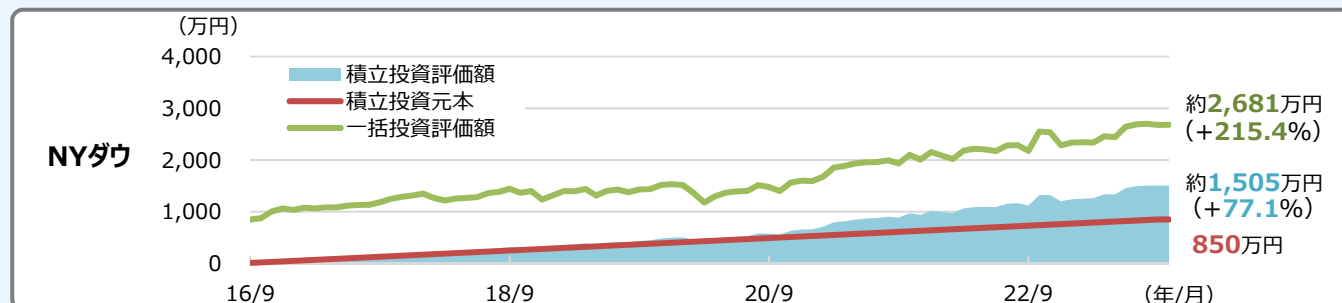
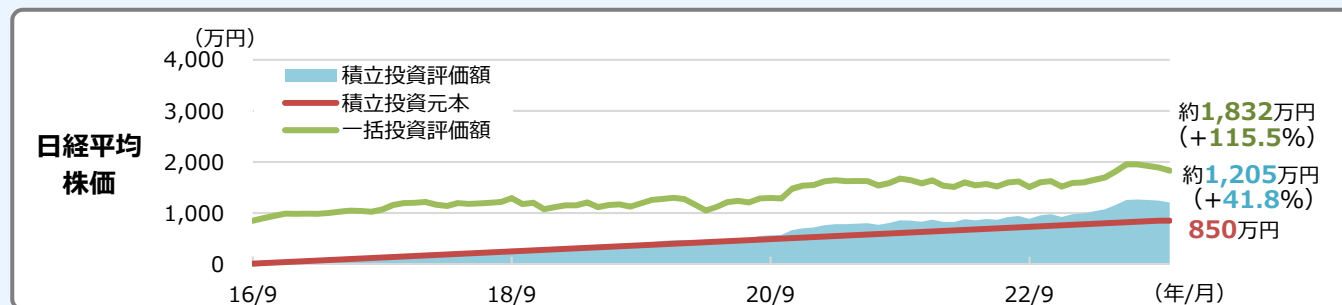
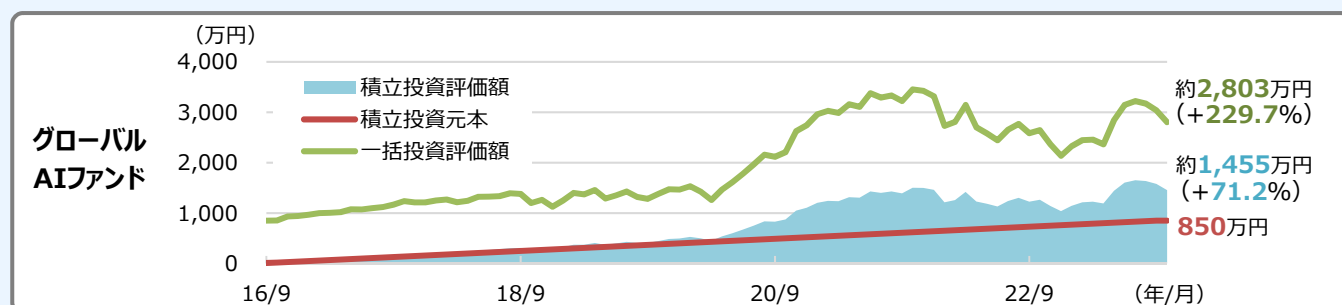
(注) メガキャップ銘柄は時価総額2,000億米ドル以上の超大型銘柄、中小型銘柄は時価総額380億米ドル以下（MSCI World Mid Cap Indexの時価総額最大企業が約380億米ドル（2023年10月末現在）であることに基づく。）。

(出所) ヴォヤIMのデータを基に委託会社作成

※上記は資料作成時点の見通しであり、当シリーズの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。今後、予告なく変更する場合があります。

(ご参考) 積立投資・一括投資した場合 ～グローバルA I ファンドと株式インデックスとの比較～

- 2016年9月末から2023年10月末まで、毎月10万円（合計850万円）を積立投資した場合、また2016年9月末時点で850万円を一括投資した場合。



(注1) グローバルA I ファンドは税引前分配金再投資基準価額（信託報酬控除後）。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。カッコ内は投資元本（850万円）に対する増加率。

(注2) 日経平均株価は配当込み、NYダウは配当込み、円換算ベース。いずれも当シリーズのベンチマークではありません。

(注3) データは2016年9月末（ファンド設定月末）～2023年10月末、月次。一括投資は2016年9月末に投資、積立投資は毎月末に10万円を投資したと仮定して計算しています。ただし、最終月は投資しません。なお、購入時手数料等は考慮していません。

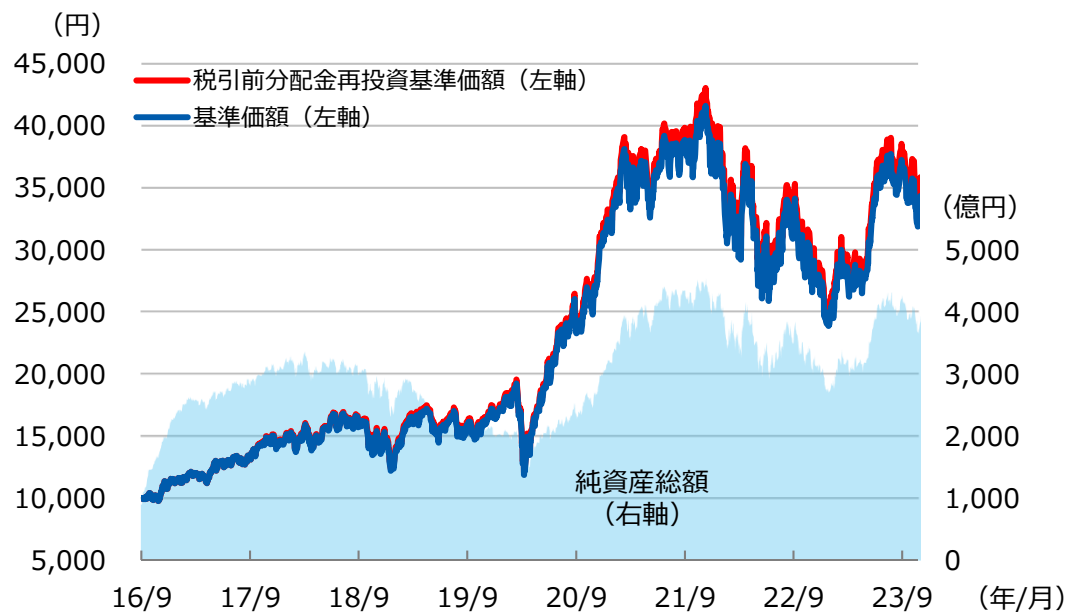
(出所) Bloombergのデータを基に委託会社作成

※上記は一定の前提条件に基づくシミュレーションであり、実際の投資成果ではありません。また、当ファンドの将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資信託は元本が保証された商品ではなく、積立・換金のタイミングによっては評価額が投資元本を割り込むことがあります。また、一括投資の成果が積立投資の成果を下回る場合があります。

基準価額等の推移 ①

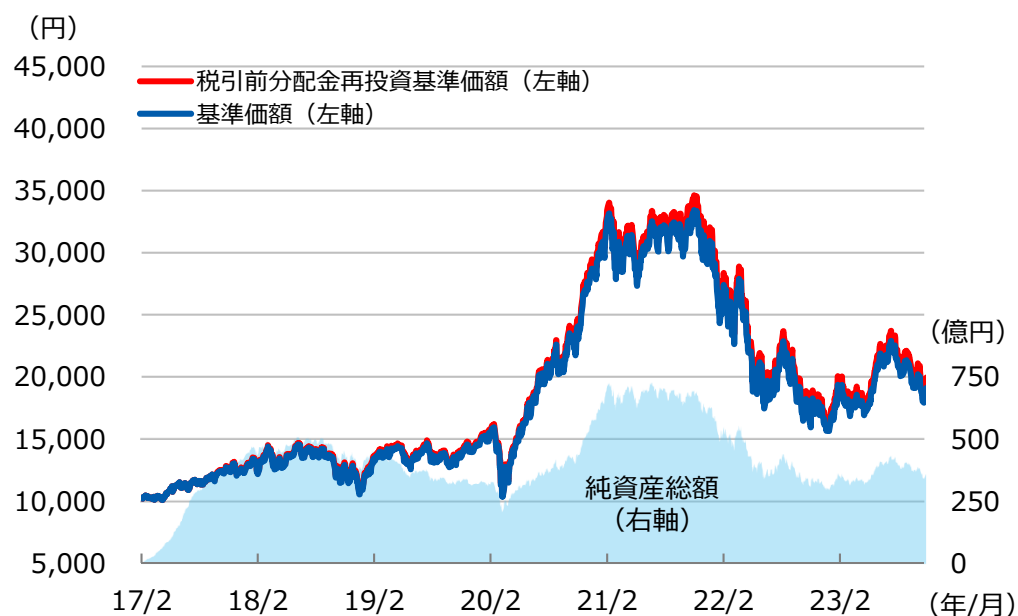
(為替ヘッジなし)

(2016年9月9日(設定日)～2023年10月31日)



(為替ヘッジあり)

(2017年2月10日(設定日)～2023年10月31日)



(注1) 基準価額、税引前分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。分配金は1万口当たり、税引前です。

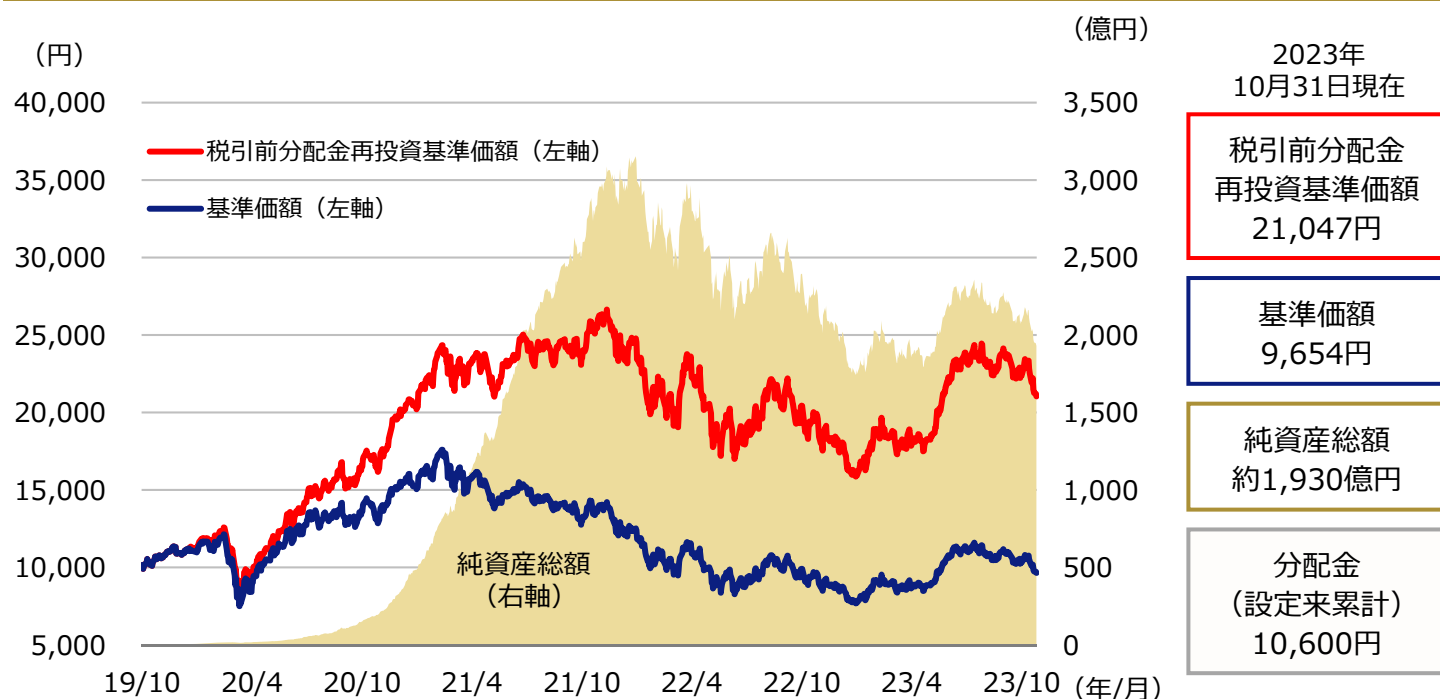
(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

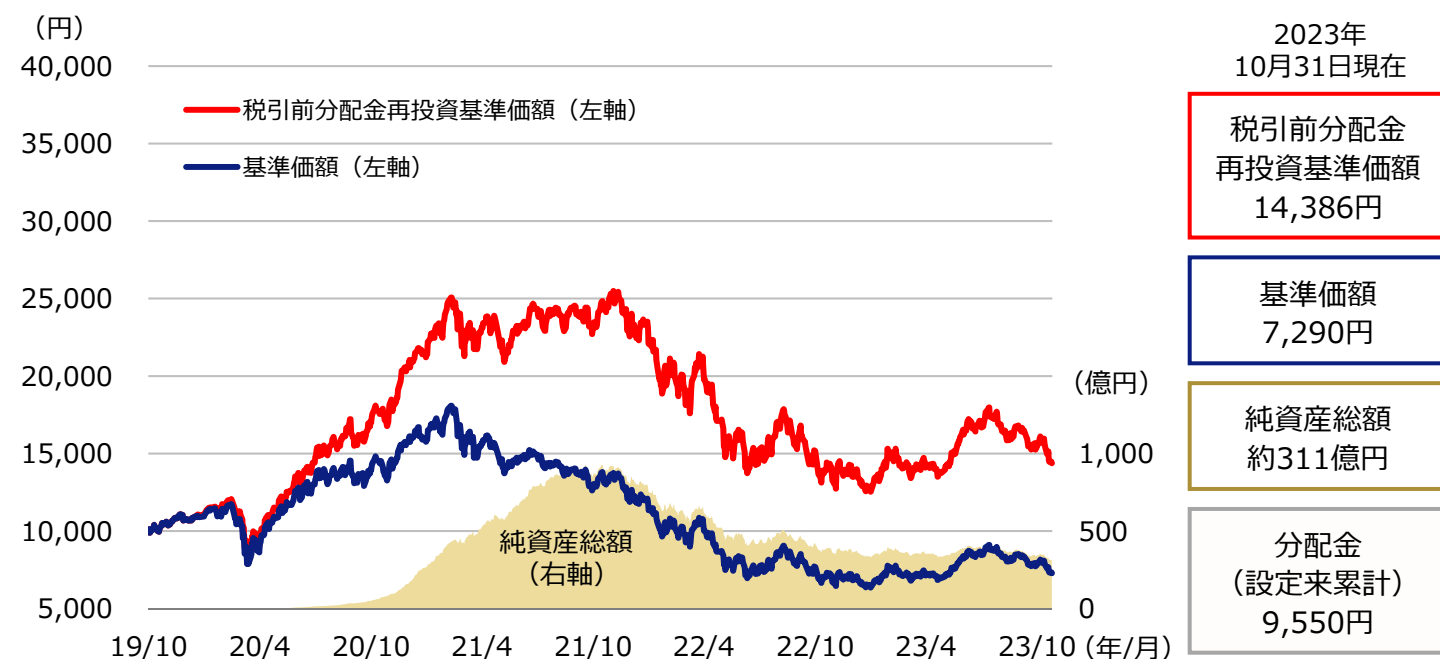
※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは15ページをご覧ください。

基準価額等の推移 ②

(為替ヘッジなし予想分配金提示型)
(2019年10月7日(設定日)～2023年10月31日)



(為替ヘッジあり予想分配金提示型)
(2019年10月7日(設定日)～2023年10月31日)



(注1) 基準価額、税引前分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。分配金は1万口当たり、税引前です。

(注2) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。分配金額は委託会社が分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

※ ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。くわしくは15ページをご覧ください。

ファンドの特色

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のようにあります。

グローバルAIファンド	：（為替ヘッジなし）
グローバルAIファンド（為替ヘッジあり）	：（為替ヘッジあり）
グローバルAIファンド（予想分配金提示型）	：（為替ヘッジなし予想分配金提示型）
グローバルAIファンド（為替ヘッジあり予想分配金提示型）	：（為替ヘッジあり予想分配金提示型）

1. グローバルAIエクイティ・マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）への投資を通じて、世界の上場株式*の中から、AI（人工知能）の進化、応用により高い成長が期待される企業の株式に投資を行います。
 - AIテクノロジーの開発のほか、AIの開発に必要なコンピューティング技術、AIを活用したサービス、ソフトウェア・アプリケーションの提供を行う企業や、AIを活用したサービスを駆使して自社ビジネスを成長させる企業等に投資を行います。
 - AI（人工知能）とは、Artificial Intelligenceの略です。人間のように自ら学び発達していくコンピューター・プログラムをさします。
 - * 上場株式には、不動産投資信託（REIT）も含まれます。
2. AIに関連する企業の投資戦略に強みをもつ、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーが実質的な運用を行います。
 - マザーファンドの運用にあたっては、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーに運用の指図に関する権限の一部を委託します。
3. 対円での為替ヘッジの有無により、（為替ヘッジなし） / （為替ヘッジなし予想分配金提示型） / （為替ヘッジあり） / （為替ヘッジあり予想分配金提示型）の4つのファンドからご選択いただけます。
 - （為替ヘッジなし）、（為替ヘッジなし予想分配金提示型）
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
 - （為替ヘッジあり）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）
実質組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを活用し、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。
※一部の通貨については、他の通貨を用いた為替ヘッジを行う場合があります。直物為替先渡取引（NDF）を利用することもあります。
4. （為替ヘッジなし予想分配金提示型）、（為替ヘッジあり予想分配金提示型）は、毎月の決算時に分配方針に基づき分配を行います。
 - 原則として、毎月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、分配方針に基づき分配を行います。
 - 各計算期末の前営業日の基準価額（支払済み分配金（1万口当たり、税引前）累計額は加算しません。）に応じて、原則として、以下の金額の分配を目指します。

各計算期末の前営業日の基準価額	分配金額（1万口当たり、税引前）
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

※ 分配対象額が少額な場合、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合等には、上記の分配を行わないことがあります。

<ご留意いただきたい事項>

- 基準価額に応じて、毎月の分配金額は変動します。
- 基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- 分配を行うことにより基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。
- あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

（為替ヘッジなし）（為替ヘッジなし予想分配金提示型）

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

（為替ヘッジあり）（為替ヘッジあり予想分配金提示型）

【為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は限定的です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

- ファンドは、特定の業種・テーマに絞った銘柄選定を行いますので、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、市場環境、金利および経済・法制度・金融面の諸情勢が、特定の業種・テーマに対して著しい影響を及ぼすことがあります。当該業種・テーマに属する銘柄は、これらの情勢等に対して同様の反応を示すことがあります。
- （為替ヘッジあり）（為替ヘッジあり予想分配金提示型）為替取引を行う場合、直物為替先渡取引（NDF）を利用する場合があります。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待等の影響により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。したがって、実際の為替市場や金利市場の動向から想定される動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なることがあります。また、当該取引において、取引先リスク（取引の相手方の倒産等により取引が実行されないこと）が生じる可能性があります。
- （為替ヘッジあり）（為替ヘッジあり予想分配金提示型）ファンドが活用する店頭デリバティブ取引（NDF）を行うために担保または証拠金として現金等の差入れがさらに必要となる場合があります。その場合、ファンドは追加的に現金等を保有するため、ファンドが実質的な投資対象とする資産等の組入比率が低下することがあります。その結果として、高位に組み入れた場合に比べて期待される投資効果が得られず、運用成果が劣化する可能性があります。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

分配金に関する留意事項

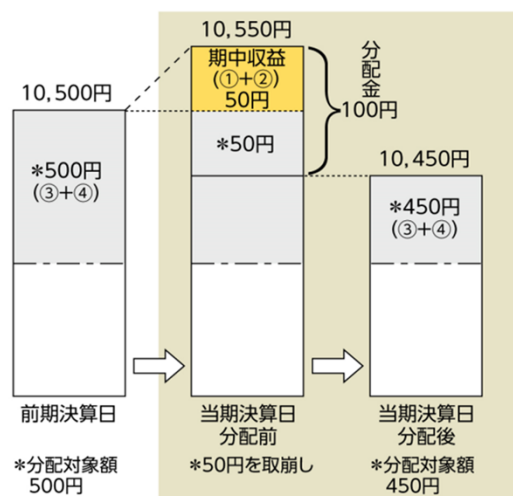
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



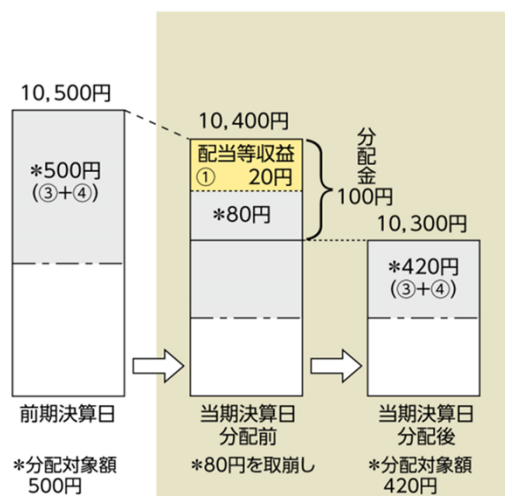
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

[前期決算日から基準価額が上昇した場合]



[前期決算日から基準価額が下落した場合]

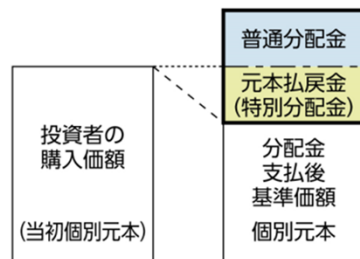


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

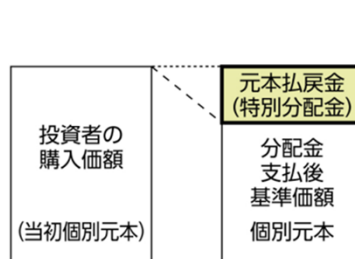
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

[分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合]



※ 元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

[分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合]



普通分配金：個別元本（投資者のファンド購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

お申込みメモ

購入単位

- 1万円以上1円単位
- 投信自動積立の場合：1万円以上1千円単位
- スイッチングの場合：1円以上1円単位

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

三井住友銀行の定める期日までにお支払いください。

換金単位

1円以上1円単位

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

- (為替ヘッジなし)
- 2026年9月25日まで (2016年9月9日設定)
- (為替ヘッジあり)
- 2026年9月25日まで (2017年2月10日設定)
- (為替ヘッジなし予想分配金提示型) / (為替ヘッジあり予想分配金提示型)
- 2026年9月25日まで (2019年10月7日設定)

決算日

- (為替ヘッジなし) / (為替ヘッジあり)
- 毎年9月25日 (休業日の場合は翌営業日)
- (為替ヘッジなし予想分配金提示型) / (為替ヘッジあり予想分配金提示型)
- 毎月25日 (休業日の場合は翌営業日)

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配を行います。
ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

- 以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。
- ニューヨークの取引所の休業日
 - ニューヨークの銀行の休業日

スイッチング

グローバルAIファンド、グローバルAIファンド(為替ヘッジあり)、グローバルAIファンド(予想分配金提示型)、グローバルAIファンド(為替ヘッジあり予想分配金提示型)の間でスイッチング可能

スイッチングの際にも、ご購入いただくファンドの最新の投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

○ 購入時手数料

購入時手数料（消費税込）は、購入代金（購入金額（購入価額（1口当たり）×購入口数）に購入時手数料（消費税込）を加算した額）に応じて、以下の手数料率を購入金額に乗じて得た額となります。

（購入代金）	（手数料率）
1億円未満	<u>3.30%（税抜き3.00%）</u>
1億円以上5億円未満	<u>1.65%（税抜き1.50%）</u>
5億円以上10億円未満	<u>0.825%（税抜き0.75%）</u>
10億円以上	<u>0.55%（税抜き0.50%）</u>

※分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

○ スイッチング手数料

ありません。

○ 信託財産留保額

ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

○ 運用管理費用（信託報酬）

ファンドの純資産総額に年1.925%（税抜き1.75%）の率を乗じた額です。

○ その他の費用・手数料

以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。

- 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
- 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
- 資産を外国で保管する場合の費用 等

※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※監査費用の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。

※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	<p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）</p>
受託会社	<p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>株式会社りそな銀行</p>
販売会社	<p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p> <p>株式会社三井住友銀行</p>
投資顧問会社	<p>マザーファンドの運用指図に関する権限の一部の委託を受け、投資信託財産の運用を行います。</p> <p>ヴォア・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー</p>

投資信託に関する留意点

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書（交付目論見書）」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧ください。これらは三井住友銀行本支店等にご用意しています。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 投資信託説明書（交付目論見書）のご請求・お申込



株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 資料の作成、設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

作成基準日：2023年10月31日